

# 「ウェルフェア・フェスティバルin桜堤」 参加から学ぶ地域共生社会

杏林大学保健学部看護学科 日野徳子  
武蔵野市ikiなまちかど保健室 丹内まゆみ

## 背景

ikiなまちかど保健室とは

地域の人や地域で働く人たちが、暮らしや健康に関する情報をいつでも自由に得られ、ちょっとした相談ができる場所。そして、健やかな体・心・つながりをつくるまちの居場所。



### 桜堤地域の特徴、保健室を利用する高齢者のニーズ・希望

- ①一団地の住宅施設として計画的に都市計画整備を進められてきた区域
  - ②若いファミリー層や単身者も多く、多世代が混在し、交流はあまりない
  - ③子どもたちに迷惑をかけずに、現在の生活様式を継続していきたいと考えている高齢者が多い
  - ④パソコンやスマートフォンの操作に慣れていない高齢者が多い
- さらに、フェスティバルでは、老若男女、子ども、障害者等の参加も見込まれ、去年は200人の来場者、天候に左右されない内容等を考慮した健康教育を検討した。

### 学生参加プログラム

#### ウェルフェア・フェスティバルin桜堤

2023年より武蔵野市桜堤エリアで、近隣にある高齢者・障害者・子ども関連の事業所が地域住民への啓蒙やつながりを持つことを目的としたウェルフェア・フェスティバルが開催されている。2023年度は来場者約300名、高齢者施設による「体操教室」「壁画づくり」「駄菓子の販売」、小学校の吹奏楽部による「演奏会」訪問看護ステーションや暮らしの保健室による「手話ソング体験」「ものづくり」等、全世代が参加しやすく、楽しめる工夫をし、地域に寄与したまちづくりを目指した取り組みをしている。

## 目的

高齢参加者の健康意識やデジタルリテラシーを高める取り組みを通じて、参加学生が地域における共生社会の実際を学ぶことを目的とした

## 対象と方法

対象者：ウェルフェア・フェスティバルin桜堤参加者（主として高齢者）

方法：学生主体による動画・パンフレットの作成：「脳トレ」「体操」「スマートフォンの使い方」

卒研発表と重なり当日の学生参加なし ⇒ 当日の様子を撮影し、学生は後日、視聴した



## 結果



### 配慮した点

- ①誰でも簡単にできる
- ②対象者の年齢・状態を問わずにできる
- ③自然と笑ってしまうような動作や雰囲気をつくる

⇒ 体操：「マツケンサンバⅡ」使用、椅座位・立位バージョン作成  
脳トレ：「あるなしクイズ」「なぜなぜ」「まちがい探し」難易度を変えて作成

ある	なし
いちご	もも
ポスト	電信柱
消防車	パトカー
血液	髪の毛



### 配慮した点

学生が祖父母や近所の高齢者に聞き取り調査を実施

- ⇒
- ①基本操作：タップ操作、スワイプ操作、ズーム操作、戻る操作、電源を切る操作
  - ②QRコードの読み方、迷惑メール
  - ③LINEの使い方



## まとめ

- ・学生が何気なく使っているスマホが題材だったことから、世代による「違い」を実感することができた。
- ・当日の様子や参加者の反応から、学生は「違いを認め合うことの大切さ」を感じていた。
- ・自分たちが地域の高齢者を含めた参加者に貢献できている様子を見、自信につながっているようだった。

